

いちご病害虫情報第9号(2月)

平成27年2月20日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	3	5	0	12	10	36	32	0	8	総調査ほ場数: 64か所 総調査株数: 1,600株 (調査株数 25株, 調査花数 100花)
	本年平均値	4.7	7.8	0.0	18.8	15.6	56.3	50.0	0.0	12.5	
	平年値	3.4	9.5	5.9	4.2	6.4	51.1	43.8	0.6	22.6	
	(本年平均値/平年値) × 100	138.2	82.1	0.0	447.6	243.8	110.2	114.2	0.0	55.3	
株率 (%)	発生株数	0	4	0	0	30	314	121	0	31	○今月の病害虫発生状況○ ・萎黄病の発生が例年より多くのほ場でみられています。 ・灰色かび病の発生は平年並みです。 ・ハダニ類の発生は、平年並みですが、ほ場間で発生量の差が大きい傾向があります。 ・アブラムシ類の発生が例年より多くのほ場で見られます。
	本年平均値	0.0	0.3	0.0	0.0	1.9	19.6	7.6	0.0	0.5	
	平年値	0.0	0.4	0.4	0.0	0.7	18.2	10.3	0.0	1.7	
	(本年平均値/平年値) × 100	-	75.0	0.0	-	271.4	107.7	73.8	-	29.4	
発生程度	少	平年並	少	少	多	平年並	平年並	少	やや少	やや少	
概評	やや少	平年並	少	平年並	多	平年並	平年並	少	やや少	やや少	

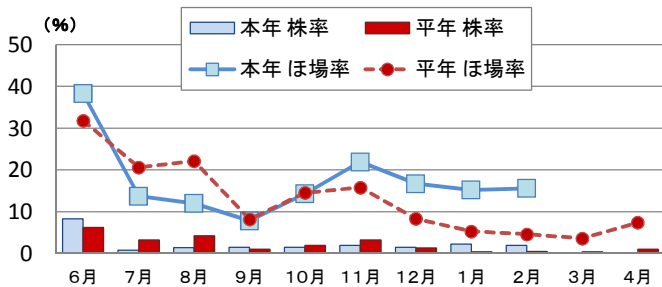


図1 アブラムシ類発生ほ場率・株率

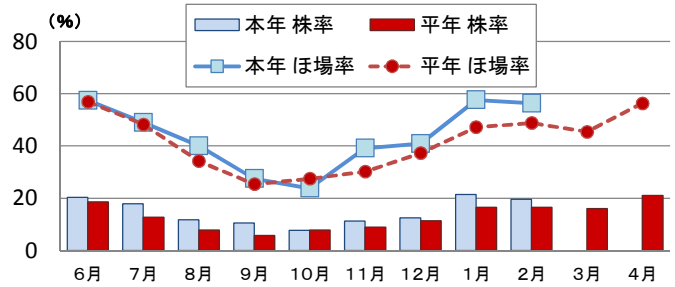


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

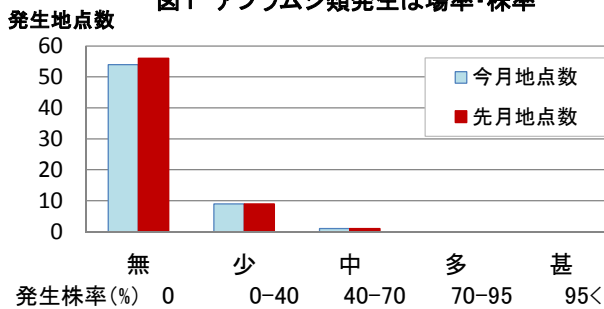


図3 発生程度別の地点数(アブラムシ類)

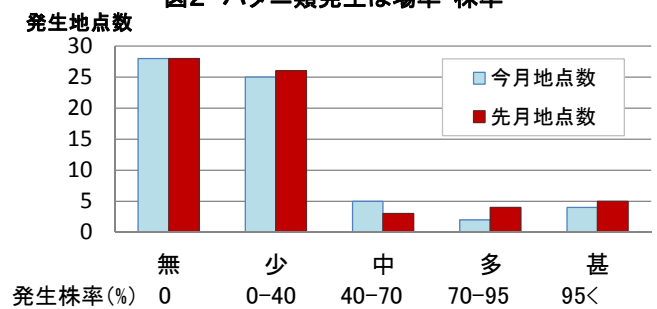


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○アブラムシ対策

・発生株周囲のマルチ上には、脱皮殻や排泄する甘露が付着するため、気をつけて観察し、見つけたら早期に防除する。
・発生が見られたら、ウララDFやチェス顆粒水和剤で防除する。なお、両剤とも遅効的なため、5日程度経ってから効果を確認する。

○ハダニ対策

・ハダニ類は下葉の裏にいることが多いので、必要に応じて葉かきを行い、薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
・天敵製剤の放飼前には、必ず一度ハダニ類を防除して密度を下げる。また、薬剤は天敵に影響のないものを選択し、放飼後も1~2週間は薬剤散布しない。
・天敵を導入したハウスでは、ハダニ類が部分的に発生しやすい。部分的に糸が張るような場合には、気門封鎖剤をスポット散布する。
・天敵製剤は適宜追加放飼することで効果が安定する。



写真 葉に寄生するワタアブラムシ

○今月の技術情報(技術指導班)○(2月)

引き続きハダニ類の発生は多い状況であるとともに、アブラムシ類の発生が平年よりも多い状況です。また、灰色かび病は現時点では平年並みですが、今後の天候次第では増えることも予想されます。特に、スカイベリーでは要注意です。いちごの株や花をよく観察し、病害虫の早期発見により、被害の軽減に努めて下さい。

一方、これからの時期は、日射も強まるため、温度の上昇による果実の傷みなど、品質低下にも注意が必要です。内張りビニールを上手に活用し、日射の調整を図るとともに、換気方法も工夫しましょう。

多湿によって果実の傷みや病害発生への恐れがあります。循環扇を積極的に活用するとともに、かん水は一度に多量に行うことは控え、間隔を短く、1回当たりの量を少なくして調節しましょう。